

海蔵地区地区懇談会「インターネットにおける人権」を開催して

今年度の地区懇談会は阿倉川4町ブロック（東阿倉川1、2区・阿倉川町・万古町）、三ツ谷ブロック、松ヶ丘・阿倉川新町ブロックで「インターネットにおける人権」をテーマに開催しました。

1月1日に石川県能登半島で最大震度7の揺れを観測する大地震が発生した直後からSNS上で誤情報や偽情報が拡散され、また7~8月に開催されたパリオリンピックのアスリートに対するSNSを中心とした誹謗中傷の炎上がテレビや新聞などで取り上げられ、大きな社会問題になりました。

これらの問題が冷めやらぬ中での懇談会ということもあり、参加者の発言やアンケートの結果からも皆さんの関心の高さが感じられました。

阿倉川4町ブロック

地区懇談会の感想の一部をご紹介します。

- ・インターネットは身近な道具である時代なので、同じ海蔵地区というだけで様々な立場の方と話をすることができ、とても有意義な時間となりました。インターネットの課題というよりは人権問題の根本となる部分の意見を聞くことができ、とても勉強になりました。
- ・ネットは匿名性、顔が見えないので過激になるのではないかと意見が多かった。やっぱり人と話をすることが大事だと感じた。
- ・インターネットによるトラブルは大人も子どもも激増しているので、タイムリーだったと思う。参加者は前向きだが、その他の多くの人に考えてもらうには「同推くん」通信は有効だと思う。
- ・インターネットやAIが発達した現代なので便利さの裏に自分には想像もつかないくらいの落とし穴があると感じました。どんな場面、状況でも人権とは何か、人権侵害とはどういうことかをしっかり考えていく必要があると感じました。
- ・ネット社会を生きるために今までも大切にしてきた相手を思う心を忘れてはいけない。責任を持った発言を心がけたい。
- ・タブレット、コンピューター、AI…、進歩について行けない（70歳代）。
- ・若い世代はネットに対する勉強をしているから書き込みなどに気がつかっているが、そのような勉強をしてこなかった大人の世代が考えずにしているのでは？という話を聞いて、まずはネットの使い方を改めて皆が学ぶ機会があるべきだと思いました。このような懇談会などがより多くの



人に参加される機会になるといいなと思いました。

- 様々な立場の方から意見を聞けてとても参考になりました。改めて「インターネットと人権」は難しい問題であると実感しました。
- こうして集まって話し合うことで危険性について確認することが出来るので、こうした機会は大切だと改めて感じた。子どもの生活とインターネットを切り離すことはとても難しいが、マナーや危険性について伝え続けていくことは大きな意味があると思うので今後もコツコツと続けていきたい。



私たちが加害者にならないためにはどうしたらいいか、NHK日曜討論の内容を中心にまとめましたので参考にさせていただければ幸いです。

1、誹謗中傷の種類（国際大学GLOCOM 山口慎一）

1	脅迫・恐喝	「殺す」「死ぬ」	6	不幸を望む・呪う	「車にひかれろ」
2	侮辱的・攻撃的	「バカ」「消えろ」	7	排除	「あなたの話は聞かない」
3	容姿・人格否定	「顔が気持ち悪い」	8	嘘の情報	「反社会的勢力とつながっている」
4	親族・組織への悪口	「おまえの親はクズだ」	9	性的表現	「裸を見せろ」
5	差別的な内容	「男・女のくせに」			

2、加害者にならないために

- 誹謗中傷をしている人は気付かずにしまっていることが多い。
- 相手が悪くて自分が正しいと思っている。だからこの人は攻撃されて当然で、自分はアドバイスをしているんだと勘違いしている。本人は批判のつもりでも実は誹謗中傷になっている。
- 批判と誹謗中傷は違う。

批判：相手の行動や意見に対して、異なった意見を主張すること。相手のパフォーマンスに対する論評。

誹謗中傷：相手の人格や外見に対する悪口、虚偽の発言をすること。

- 人格を攻撃されることは、自分の存在そのものを否定されるように感じる。相手が目の前にいたら言えないことをSNSならやってしまう。スマホやパソコンを相手にしてしていると言葉が強くなりすぎてしまう。

- ・意見を投稿する前に一回読み返してみる。相手の顔は見えないが、確実に向こう側には生身の人間がいることを想像する。同じ言葉を親しい友人に言えるか、投げかけられるか考えてみる。
- ・匿名性であることがクッションになって発信者側をモンスター化してしまっている。
- ・SNS上の同じような意見ばかりに接することで特定の意見だけ信じてしまうようになる。そしてこの中にいるとだんだん自分の意見が極端化し、過激になっていってしまう（エコーチェンバー現象）。



批判は表現の自由として認められるが、誹謗中傷は犯罪です。批判と誹謗中傷の境目は微妙です。自分が言われていやなことは誹謗中傷になると理解した方が良いでしょう。また発信者情報開示請求により匿名性は崩れるということをお忘れはいけません。（F）

「第31回人権を考える集い」を終えて

10月15日（土）に開催した「柳田はるかコンサート～見えないからこそ見えてきた素敵な景色～」が無事に終了しました。

今年も海蔵小学校の体育館をお借りして行いました。また、準備に携わった方々に御礼を申し上げます。

柳田はるかさんは、視覚障がいというハンディを抱かえながらギターを習い始め、日本テレビの24時間テレビに出演した際は日本武道館で一青窈さんとコラボしました。

現在、家事、子育て、ハウスでのトマト・メロン栽培に励むとともに、視覚障がいの啓蒙活動や講演、音楽活動に精力的に取り組んでいます。

今回のコンサートについてのアンケート結果では、94%の方が「とてもよかった」と回答がありました。

また、ご意見・ご感想をお聞きしました。

- ・声がとてもきれいで聞き取りやすく良い歌を聴かせてもらい感動しました。とても素晴らしい経験が出来ました。



- ・自分にハンディがあるにも関わらず、明るく振る舞う姿に感動しました。しかしここまでになるまでに大変な苦勞、悩みがあったんだろうと思います。心から応援しています。
- ・見えないからこそ見えてきた素敵な景色、色々な体験をされ大変だったと思います。でもそれが自分を強くされたと思います。立派だなあとと思います。ギターも良かったし、歌も素晴らしかったです。ありがとうございました。
- ・とても感動しました。これからの人生に生かしていきたいです。
などいろいろな、感想・意見をいただきました。ありがとうございます。



※後日、柳田はるかさんよりお礼のメールをいただきました。

先日の人権を考えるつどいでは大変お世話になりました。皆さまからのアンケートも読ませていただき、たくさんの方の暖かいお言葉、本当に嬉しく、胸が熱くなりました。地元を離れお話しさせていただくのは初めてで大丈夫かな？と心配していましたが、たくさんの皆さんが足を運んでくださり、これも藤岡さんを始め、皆様のお力のおかげと思っています。本当にありがとうございました。

講演終了後、たくさんの皆様があたたかい声をかけてくださり、また頑張る力を頂きました。本当に暖かく素敵な時間をありがとうございました。また、このご縁を大切に…お会いできることを楽しみにしています。

柳田

本当に、感動をありがとうございました。 (S A)



◎同推くんのバックナンバーは、『かいぞう地区』のホームページからご覧いただけます。
<http://www.kaizotiku.org/>